

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	372300327		
法人名	特定非営利活動法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームぶどう苑 第2		
所在地	岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55		
自己評価作成日	平成26年8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0372300327-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑わせる事・ほめる事で元気にさせる」をモットーに利用する方の生き甲斐を今以上に強化し、生きる喜びや楽しみを利用者が感じてもらえるよう追求しております。
職員には介護技術向上の為、資格取得を奨励し勉強会の実施や薬剤師を招いてクスの正しい使い方等、技術向上に力を入れております。
日頃から防災意識を高め火災や地震等を想定し避難誘導訓練を定期的実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人運営の介護事業所(認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護)が同一敷地内に一体的な建物に集約されており、共同しながら、地域福祉の充実に貢献している。
・地域のボランティアの受け入れが活発であり、地域の団体、個人の協力による各種教室(カラオケ、書道、民謡、歌謡)を定期的開催したり、中高生生の介護体験、ボランティア受け入れにも積極的である。利用者の生活の張り合い、生きがいを生み出す効果は大きいものと思われる。職員の研修や資格取得の意欲も感じられ、仕事のやりがいにも繋がっていると思われ、全体的に活気に満ちている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にユニットの年度目標を決め、それを見やすい場所に掲示している。職員が目標を毎朝唱和する事により理念を共有し実践につなげている。	各ユニットごとに「今日も笑顔でゆったりと、寄り添う時間を大切に」「動いて歩いて声を出す。1日1回大笑い」と、それぞれの利用者の状態に応じた目標を掲げ、職員は笑顔を引き出す関わりを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	苑の行事に地域の方を招待し参加していただいている。また、地域の文化祭に利用者の作品を展示する等交流を図っている。	地域の団体、個人の協力による各種教室(カラオケ、書道、民謡、歌謡)を定期的で開催されたり、中高生との介護体験、ボランティア受け入れにも積極的である。地域の行事にも参加されており、地域に根差した事業所の姿が見られ、地域との良い関係を築いている。	保育所や学校、ボランティアとの絆を土台に、事業所の実践経験を活かして地域福祉の充実、地域密着型サービスや認知症の理解を深められるよう、地域に対して一層の働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を地域の方々に理解して頂く為に盆踊りなどの苑の行事を通じ、実際に交流する事によって地域の方々に理解や支援を頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事に運営推進会議の委員を招き利用者の活動を直接見て頂き意見やご指導をいただいている。	定期的開催し、事業所の状況報告を中心に事業所を理解してもらえよう行っている。その他、防災や防犯、利用者の安全面について等、それぞれ、事案ごとに消防や警察、行政の協力を得ながら、開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市の職員の方も入っていただき情報交換を行っている。また、地域ケア会議にも出席し、情報交換を行なっている。	市の支所がすぐ隣という立地であり、連絡を密にとりやすい。市の担当者との馴染みの関係を築くことが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法令に関する事を、勉強会等で理解し実践している。玄関は日中施錠せず、他ユニットと協力して見守りを行い安全に心がけている。	職員には心の余裕を持って利用者と接することができるように、配置しており、時間が押してもゆったり対応するよう指導している。隣接の事業所の見守り協力もあり、利用者が一人で外出された際も付き添える体制となっている。ペット使用等で危険な状況がある際は、家族と相談の上、対応を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での介助に虐待に当たる対応がないか、常に確認し、発生防止に取り組んでいる。何気ない言葉使いにも注意を払っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑(第2)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学び活用できるようにしている。実際に後見制度を利用されている利用者を題材に検討会を開催している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に料金やサービス内容を十分に説明し、利用者、家族に了解を得た上で契約を行っている。特に加齢に伴うリスクについても説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日常の会話の中や家族の来苑時に、要望を聞くように心がけている。また、要望があった場合には会議にかけ、対応している。	家族には定期通院や面会で来訪した際に、利用者の状況を伝えるとともにコミュニケーションを図り、意向の把握に努めている。また、事業所内に意見箱を設置し、意見、要望を表しやすい環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主任会議やユニットごとの会議で職員の意見を聞く機会を設け、良いアイデアは日々の業務に取り入れるようにしている。	管理者は職員の工夫を引き出し、アイデアを日々の業務に活かせるような仕組みとなっている。地域のボランティア受け入れ等は職員の意見を取り入れて行事やレクリエーション、趣味活動等、活発に実施されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	食事検討委員会、レクリエーション委員会、レベルアップ委員会を作り、職員の意見や提案を自由に出せる機会を設け、向上心をもてるよう配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会、勉強会に参加する機会を設け、参加後は施設内の会議などで報告している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人と交換研修を行ったり、介護技術についての意見交換会等の研修会に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で、本人からも困っていることや要望等を聞くように努めている。そして家族からも要望を聞き調整して利用者本人が安心できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の段階で家族から聞き取り調査を行い、サービス利用開始後も家族と連絡を取り合い、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望がほとんどだが、空きがない場合は、併設している小規模多機能施設のサービスも勧めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事後の片付けや、配膳、おやつ作りを一緒に行ったりする中で、利用者に教えていただく事もある。また、職員の手行き届かない所の掃除を引き受けてくれる利用者もいる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来苑された際には、談笑できる時間を大切にしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が希望した時には電話などができるよう支援を行っている。また、大きなイベントの際にはご家族や近隣の方々に参加して頂ける様促している。		中学生のふれあい教室は月1回実施、高校生のボランティア、体験実習等定期的に受け入れられている。地域のボランティアの受け入れも積極的であり、地域の人々の出入りも多く、そのような活動の中で地域とのつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者は、職員が間に入り利用者のお話を聞く等、関係作りが出来る様に努めている。また、他利用者さんと会話できるような題材作りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により、退所した場合でも、職員がお見舞いをしたり、家族への連絡等で関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レク活動を通じ、それぞれの利用者の好きな事、得意な事を見つけ、毎日の生活に結び付けるよう努力している。	職員が利用者の中に入って会話することを大切にしており、そのような関わりの中で利用者の意向の把握に努めている。また、レクリエーションや趣味活動を通じ、表情からも意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の際の聞き取り調査に加え、居室担当者が中心となり、利用者との会話の中で情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い、健康状態の把握に努めると共に、レク活動は心身の状態に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回のスタッフ会議を開き、介護計画に反映させている、また、家族が来苑された時に合わせ家族との話し合う機会を設け、意見、要望を介護計画に反映させている。	職員は担当制にしているが、チェック表を活用し、介護計画の実施状況や、生活の状況を把握し全職員が情報共有のもと、統一した対応と、家族の意向の把握に努めている。家族面会時には、日頃の状況を伝えながら、介護に対する希望を確認し、介護計画に反映させるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入している。 ノートを利用し、職員間で情報の共有に努めている。必要であれば介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族と話し合い、その時々ニーズに柔軟に対応するようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑(第2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア及び各教室の講師を招き、色々な教室、合同レク等を楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を継続出来る様にし、居室担当職員が出来るだけ具体例をあげた情報提供書を作成している。	家族の支援で、かかりつけ医、希望の病院を受診されている。また、認知症の重度の症状がある方には、専門医を受診できるよう支援している。的確な情報提供と、電話での密な連絡体制をとり、症状の改善が見られるケースもあり、利用者本位で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と管理者、職員が連絡を取り合い利用者の状態を把握し、看護師に伝えスムーズに看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、職員が見舞いに出かけたり、利用者の状態を病院関係者から聴き、家族と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に於いては、家族と話し合いホームでできる事、出来ない事を説明し方針を家族と共有している。 職員もスタッフ会議に於いて話し合いをしている。	看取りの指針を整備し、入居時に説明している。医療面の必要がない場合は、事業所で出来る限りの対応(見守り、緩和ケア等)を理解して頂いた上で、家族の希望に応じて対応する体制をとっている。職員の勉強会等も実施し終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受け、AEDを使用した勉強会等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加しての避難訓練を実施している。運営推進委員会を通じて地域の方々にも協力を呼びかけ参加してもらっている。	定期的に消防立会いのもと訓練を実施している。災害による二次的被害の停電等に備え、発電機、反射ストーブ、ランタン等を備え、定期的に使用方法を確認している。水や食品を備蓄し災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などは、それぞれの利用者に合わせた声掛けを行い、パット確認などは利用者に配慮し、人目につかないよう気をつけている。	日常の関わりの中で個々を尊重した声掛けに配慮している。排泄介助では特に羞恥心に配慮しプライバシーを損ねないような対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	習字、手踊り、カラオケ、民謡、料理などさまざまな教室を行い、利用者の好みで参加できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレク活動、入浴日とその日一日の流れを強制することなく、本人の希望を聞き入れながら、一日を過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋や化粧品などは本人の希望通り家族や職員が支援している。衣類はアイロンをかけて着る方、職員と相談しながら服を選ぶ方等おしゃれを楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜や旬なものを取り入れた料理で季節感などを大切にしている。誕生会には希望メニューを入れて楽しんで頂いている。食事の準備や片付も無理なく利用者と職員で行っている。	食事委員が食事を楽しむ支援として、買い物から作るまで(ひつつみ、カレー、チャーハン等)を利用者と職員が行う取り組みを検討している。普段の食事の準備でも、日課として、出来ることを無理のない範囲でやっていただく等、共に食事を楽しめる支援に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や好き嫌いを把握し、体調管理には気を付けている。入浴後や定時の水分補給以外にも声掛けし、摂取したい方や居室に水筒を置いている方には随時提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方には声を掛け、介助の必要な方にも出来るところは、してもらいながら口腔ケアを行っている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑(第2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、定時に声掛け誘導を行い、排泄支援を行っている。オムツに頼らない支援を実践している。	日中は、トイレでの排泄を基本とし、歩行力が低下してきている利用者に対しては、立位訓練を実施し、トイレ使用を継続できるような取り組みをしている。紙おむつ、パット類の適切な使用方法等の研修も行っており、利用者の不快を軽減できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、便秘薬の服用、また起床時の冷たい牛乳飲用で対応している。散歩や、毎日の体操に便秘体操も取り入れ、出来るだけ身体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日は決まっているが、本人の体調や希望により、随時調整を行っている。入浴を拒む利用者には、時間を置いて再度声掛けしたり、異性介助を嫌う方には同性で対応している。	入浴がすすまない利用者には、声掛け誘導を工夫しながら、楽しく入浴できるように支援している。利用者の重度化に伴い、安全に入浴できる対応にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	うまく入眠できないような時は、しばらく話し相手をしたり、温かい飲み物を提供してみたりと個々に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ノートを一人ひとり作成し、職員が共有している。薬の変更や受診時、医師からの指示を記入して、服薬後の経過に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを兼ねて、食事の配膳、下膳、食器洗い、テーブルふき等を役割を持って生活している。色々な行事の参加も促し意欲の向上、気分転換が図れるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外出、地区内での行事に参加するなど、出来るだけ戸外に出かける機会を設けている。	日光浴は日課としており、天気の良い日は玄関前でレクリエーションを実施している。地域の行事や、戸外で食事をする機会を作ったり、天気に応じて、スーパーやドライブに出かけたり、臨機応変に外気に触れる機会を作るよう努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぶどう苑(第2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものがある場合は施設の一時立替金で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する利用者には勿論のこと、外部の方、家族へのつながりも大事にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の写真などを貼りだすコーナーを設け、廊下には手芸品や習字などの作品を飾っている。また、ホールには季節を感じられるものでの飾り付けを行っている。	居間、食堂からは外の景色が見渡せて、明るく開放感がある。習字や手芸作品、スナップ写真が多数展示されており、レクリエーションや趣味活動が盛んな様子が窺われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士を組み合わせテーブルなどの配置替えをしたり、ホールのテレビなどの配置替えもしたり、楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から使い慣れた時計や鏡などの日用品を入居の際に持ち込んで頂いている他、人形、写真など思い思いに飾って頂いている。中にはお位牌を持ち込んで頂いている方もいる。	2ユニットは1階、2階に分かれ、居室スペース、配置等に違いはあるが、利用者の身体状況に応じて適切に対応されている。各居室に暖房器具が設置している。ベットも利用者の状況に合わせて、介護用～普通ベットを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室など利用者がわかりやすいよう、マークや文字を見やすい位置に配慮し、自立した生活がおくれるよう支援している。		